

移動特性に着目した認知的ソーシャル・キャピタルに関する研究

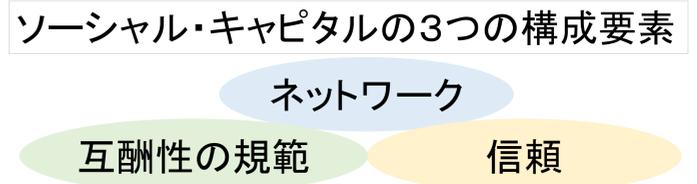
A Study on Cognitive Social Capital Focusing on Transport Property

2216005 町野 香歩 研究指導教員 森田 哲夫

研究の概要

既存研究より「ソーシャル・キャピタル→地域コミュニティ/組織力→地域力/活動力」の関係がある。本研究では移動特性とソーシャル・キャピタルの関係をアンケート調査によって定量的に明らかにし、ソーシャル・キャピタルの醸成要因を探ることを目的とする。

ソーシャル・キャピタルとは、、、
、「個人間のつながり、すなわち社会的ネットワークおよびそこから生じる互酬性と信頼性の規範」と定義されている。

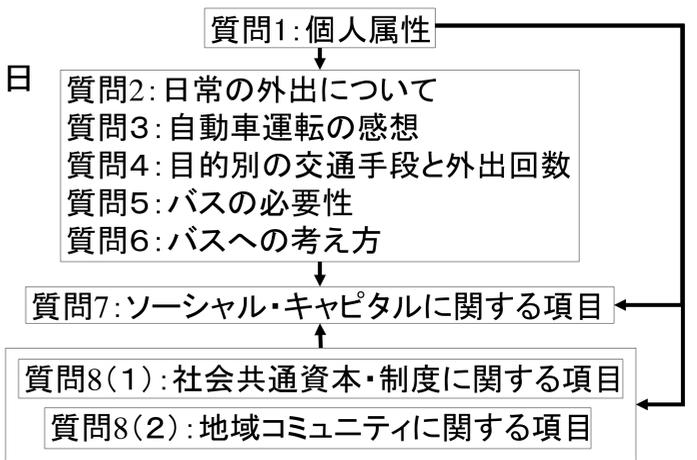


研究・分析の方法

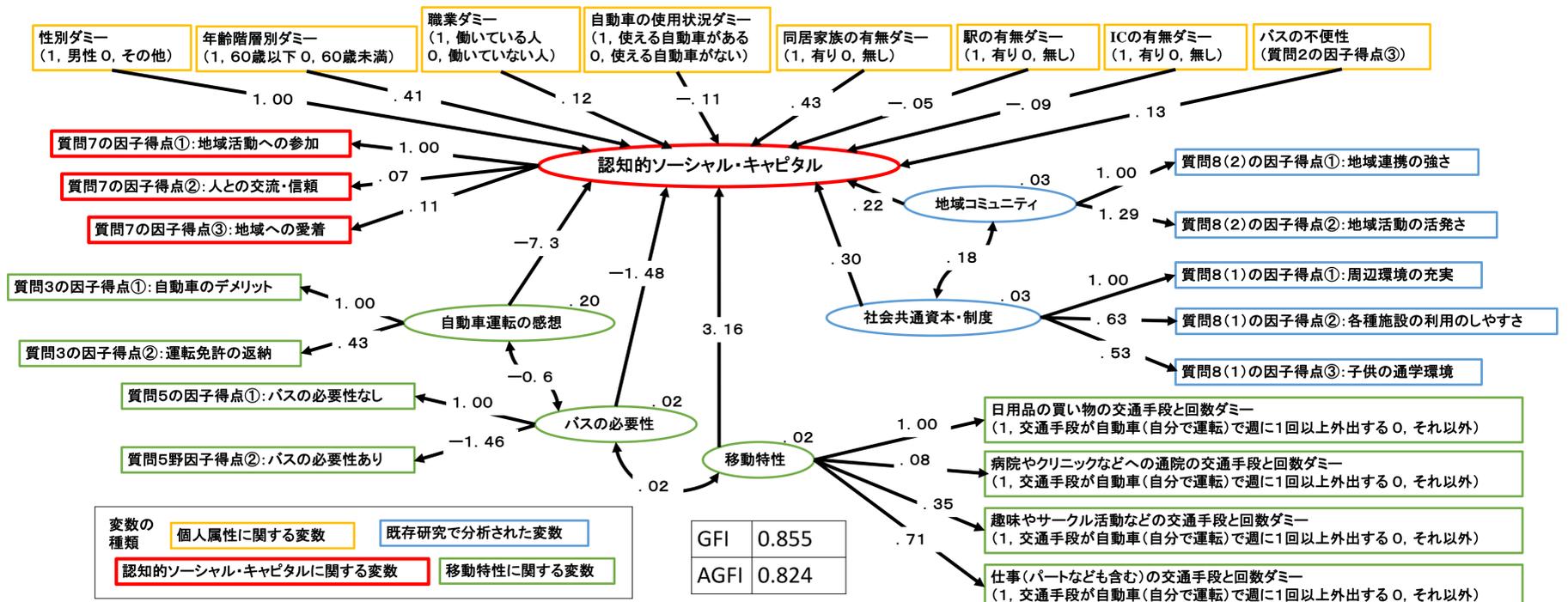
【分析(研究)の仮説】

ソーシャル・キャピタルの醸成には移動特性が関わっており、交通利便性が高いと日頃からよく外出するため、ソーシャル・キャピタルが高くなると仮説を立てた。

研究対象	群馬県藤岡市(18歳以上の市民)
調査方法	アンケート調査 「日常の外出実態と生活環境に関する調査」 回収数: 866票(44.3%)
分析方法	単純集計・地区特性・クロス集計・因子分析・因子得点とのクロス集計・共分散構造分析



分析の結果(共分散構造分析の結果)



まとめ

①移動特性に関する変数は地域コミュニティ、社会共通資本・制度の変数と比べて、ソーシャル・キャピタルに向けての絶対値が高いことから、関わりが大きいことが分かった。また、地域コミュニティ、社会共通資本・制度に限って着目すると社会共通資本・制度の関わりの方が大きいことが分かった。

→ソーシャル・キャピタルの向上には、ハード面の整備が必要である。

②移動特性に関する変数の中だけに着目するとバスの必要性を感じている人、自動車に対して何かしらのマイナスイメージを抱いている人はソーシャル・キャピタルに対して負の作用をすることが分かった。

→現状の交通に課題・不満を感じている人はソーシャル・キャピタルが低い。

